

評価用ソケットで独自色

笠作エレクトロニクス

(株)笠作エレクトロニクス(東京都大田区)は、少数精鋭集団として評価用のICソケットを主軸に独自の存在感を放っている。大手顧客に対して短納期と高い設計力を武器に、業界内でも一目置かれる存在となっている。

同社の創業は1987年。創業者で現在も代表取締役を務める笠作美

須雄氏が49歳で設立した。同氏はもともと半導体用ソケット大手の山一電機(株)で営業部長を務めていた。創業当時はパソコンボードの組立事業からスタート。その後、カスタム対応のICソケット製作に軸足を移し、業容を広げてきた。

評価用の「一品ものをつくる」ことに長けており、納期対応も魅力の

短納期対応などに強み

長年の信頼関係から継続できているという。

ICソケットのほか、IGBTなど高電流・高耐圧・高温環境に対応したパワーデバイス用検査ソケットも展開。また、ソケットだけでなく「検査に必要なプリント基板をあわせて提供できる」(笠作氏)ことも特徴の1つだという。ソケットにかかわる周辺製品では、テストヘッドやレーザーガイド治具なども取り扱っている。

自社は設計工程に特化、樹脂加工については本社1階エリアに設備を設置して内製化を行っているほか、一部協力会社にも依頼しており、自社と外部を使い分けるハイブリッドモデルを確立している。

今後に向けては、強みとする納期対応にさらに磨きをかけるべく、AIなどを駆使した設計工程の自動化にも取り組んでいく考え。人手不足も慢性化するなかで、先端テクノロジーを導入することで、省人化と納期短縮を同時に図っていくことを目指す。



本社1階エリアに樹脂加工設備を保有

1つだ。営業技術部長を務める宮平隆文氏によれば、「通常納期でも2週間、短いものでは3日で対応することもできる」と強みの1つになっていることを明かす。現在は国内の車載用半導体顧客を中心に評価用ソケットが好調で、24年だけでも20社以上の企業との取引を行った。また、一部海外顧客との取引も

